

めぶきニューヨークレポート

MEBUKI NEW YORK REPORT

2024年 No.1

米国のクラフトビールとブルワリーの戦略.....	2
トピックス ～米国で存在感を増すアジア系小売販売網～	4
NY ライフ	5
News 一覧	6

常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所
712 Fifth Avenue 8th FL
TEL : +1-347-686-8420
E-mail : newyork@joyobank.co.jp

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願いいたします。

発行元：常陽銀行市場国際部



【写真引用：pixabay】

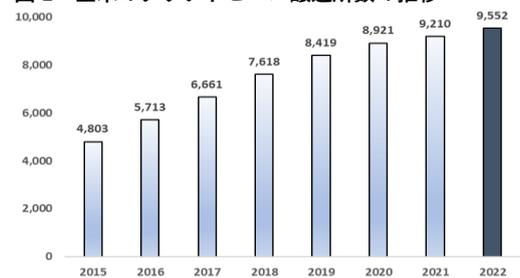
米国のクラフトビールとブルワリーの戦略

米国のビールと言えば「バドワイザー」など大手メーカーのビールをイメージしますが、小規模な醸造所（ブルワリー）で製造する「クラフトビール」の種類も豊富です。今回は、米国のクラフトビール市場の概要を紹介し、同市場のブルワリーの戦略についてレポートいたします。

1. 米クラフトビール市場概観と日本のビールメーカーの参入

- ✓ 米国ビール市場（販売高）は、2022年で約1,154億ドル（約17兆円）の規模を有し、今後も安定的な成長が予測されています。うちクラフトビール市場は24%程度（約284億ドル）を占めており、醸造所数も全米で9,000か所以上に上ります。スーパーでは様々なクラフトビール缶が販売されており、飲食店では店主こだわりのクラフトビールのドラフト（生）を置く店もあり、「クラフトビール」は米国人にとっても馴染みがある存在です。
- ✓ そうした米国のクラフトビール市場の成長性に目をつけ、日本の大手ビールメーカーも参入する動きが活発化しています。例えば、キリンは2019年に米クラフトビールメーカー3位の「ニュー・ベルジャン・ブルーイング」の買収を、2022年にはサッポロビールが「ストーン・ブリューイング（カリフォルニア州）」の買収を発表しました。

図1 全米のクラフトビール醸造所数の推移



【出所：Brewers Association】

写真1 クラフトビールが並ぶ現地小売店



2. 米国におけるブルワリーとビールに纏わる最近のトレンド

- ✓ ニューヨークにも様々なクラフトビールを製造する「ブルワリー」が点在しています。車でしかアクセスできない郊外にも多く、観光客を呼び込み地域振興の役割を担う存在でもあります。ブルワリーにはビールを飲める施設が併設され、毎日種類が変わるなど飽きさせない工夫がなされています。また、持ち帰りの缶も販売されており、家でも楽しめるようになってきました。
- ✓ ビール専門店では、ドラフトビールを量り売りで購入し、本格的なビールを家で楽しめるサービスが提供されています。また、最近セルフサービスで好きなビールを注げるバーが増えています。人件費上昇を抑える店舗側の都合でしたが、顧客側にも待ち時間を減らせるメリットがあり、こうしたバーも徐々に増えていくと思われます。

写真2 ブルワリーのタンク



写真3 量り売りで購入



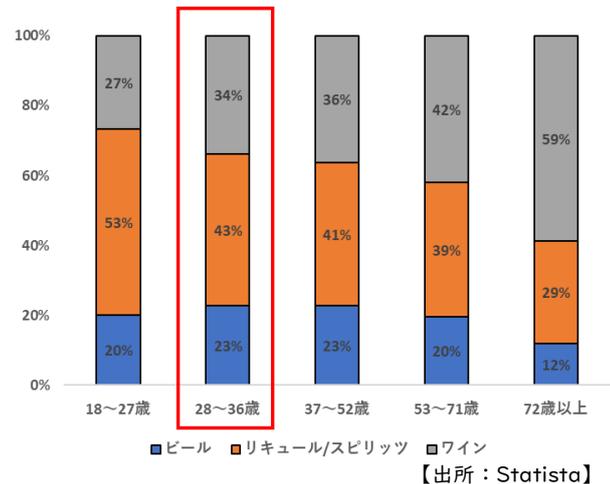
3. 米国における嗜好の変化

- ✓ 調査会社ギャラップが発表したアンケート調査では、世代別で55歳以上がアルコールを飲む比率は過去20年で上昇（49%→59%）、一方18歳～34歳の主に「ミレニアル・Z世代」と呼ばれる層では減少（72%→62%）しました。
- ✓ 一方、別のアンケート（図2）では、28歳～36歳の「ミレニアル世代」の好むアルコール飲料でビールが23%、リキュール/スピリッツが43%、ワインが34%となりました。更に下の18～27歳の「Z世代」を含めて、他の世代に比べワインが避けられビールやリキュール/スピリッツなどが好まれていることが分かりました。この世代は健康志向が強く、ビールや水で割ったスピリッツなどの「アルコール度数低め」の酒類に需要があるようです。
- ✓ なお、クラフトビールに絞ると、「毎週クラフトビールを飲む」と回答した人は、ミレニアル世代では57%にも上り、他の世代より高いことが示されました。SNSの情報をもとに①新たな風味への挑戦②社会的、環境的な問題に取り組む姿勢③地元産のブランドを好む、などの特徴がこの世代の嗜好に合っているようです。

表1 ミレニアル・Z世代の共通する特徴

・デジタルネイティブ
・多様性及び環境、社会問題を重視
・サステナブルな消費行動を意識

図2 世代別「好むアルコール飲料」アンケート



4. 進出企業のお話

- ✓ 1990年代からいち早く米国に進出し、「Hitachino Nest Beer」のブランドを確立された木内酒造様に、今の米国のクラフトビール市場についてお話を伺いました。
- ✓ 「米国では、クラフトビール市場は徐々に飽和に向かうと予想しています。消費者の世代が変化することで低アルコール飲料の需要が強まり、そのニーズを捉えるような商品開発が求められるでしょう。」（木内社長）

写真4 米酒販店に並ぶ Hitachino Nest Beer



5. 対米国向け食品関連の販路拡大のポイント

- ✓ 上記のトレンドを背景に、米国のブルワリーも「ノンアルコールクラフトビール」を開発するなど、柔軟な姿勢で消費者ニーズを取り込もうとするところも出ています。
- ✓ 「健康志向」は米国の食品業界で最もホットなトレンドとなっています。その他「サステナブル」「地元産」など、ミレニアル/Z世代に訴えるブランディング戦略も、米国への販路拡大においてポイントになると考えられます

写真5 低アルコール商品が数多く並ぶ



6. おわりに

- ✓ 米国のクラフトビール業界のようなブランディング手法は、米国のみならず日本も含めた世界各国でも多くの世代に向けた新たな需要の掘り起こしに繋がることが期待されています。例えば日本でも、原材料レベルで地元産に拘り、実際に製造現場に足を向けてもらい、実体験として楽しんでもらうことで、地域経済の活性化に繋げようとする動きは全国各地で見られている通りです。
- ✓ 当事務所では米国でのさまざまな実情や企業活動を紹介し、皆様のお役に立てる情報を提供してまいります。

（お問い合わせ先：newyork@joyobank.co.jp）【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

*写真はすべて筆者撮影

トピックス ～米国で存在感を増すアジア系小売販売網～

【はじめに】

海外での買い物で日本人にとってなくてはならないのが、食べ物や小物など慣れ親しんだ商品が陳列されている「日系スーパー」です。ニューヨークの「日系スーパー」は、マンハッタンにはもちろん、筆者が住む郊外にも複数あり、日本食を愛する日本人に欠かせない存在となっています。

また、「アジア系」のスーパーや小売店でも米やみそなどの食材を取り扱っており、こちらも貴重な存在です。アジア系住民の増加（米系アジア系人口は2000年～2019年で81%増加。ピューリサーチセンター）に伴い、店舗数も増えて徐々に存在感を増しています。

【スーパー・小売店】

韓国系スーパーの「H マート」は、カリフォルニア州、ニューヨーク州など米西東海岸中心に全米に80店舗（会社HPより）を有し、店舗の規模も大きく品ぞろえが豊富です。米系スーパーには少ない魚介類も生・冷凍品など豊富に取り扱うほか、日本の食材（米やそば、出汁や調味料等）も置いています。しかし、価格が少し高めなこともあり、筆者は日系スーパーに置いていない商品を揃える際に利用しています。

最近ニューヨーク近郊で特に店舗が増えているのが、お馴染みの「Daiso」や、「Teso」です。Daisoは日本の店舗とほぼ同じ「生活必需品」を陳列し、シンプルな価格で米国人の人気を集めており、現在、全米で119店舗を有しています（会社HPより）。また、Tesoは2017年創業、「日本の生活用品小売店」を掲げ、日本のほかアジアのスナックやドリンク、化粧品、薬、衣服などの幅広い商品を陳列し、店舗はさながら日本のドラッグストアの雰囲気です。価格も比較的抑えられており、日本やアジアの商品を購入する買い物客でお店は賑わっています。

【ネットショッピング】

インターネットでもアジア系の商品を販売するサイトが増えています。2015年に米国西海岸で創業した「Weee!」は北米最大のアジア（およびヒスパニック）系のオンライン宅配型スーパーで、米国で手に入りやすい日本の野菜や薄切り肉、お菓子、調味料など幅広い商品をリーズナブルな価格で販売しています。創業者のLarry Liu氏は中国生まれで、エンジニアとして米国に渡米しこの会社を起業しました。

こうした米国でのアジア系小売販売網の拡大は、日本の食品生産者や製造業にとって、海外進出を検討する際の支援材料となる可能性があり、注目していきます。



日本の商品を含め品ぞろえが豊富（海産物）



ニューヨーク近郊にも複数店舗



日本のお菓子や薬が揃う

【ニューヨーク駐在員事務所 吉田 圭佑】

*写真はすべて筆者撮影

NY ライフ

～冬のニューヨークを乗り切る！ 子供と遊べる屋内のお出かけスポット～

NYは毎年12月から2月まで厳しい寒さが続きます。2月はマイナス15度近くになり、小さい子供と遊ぶ時など屋内の場所を探すことが多くなります。今回は子供と一緒に楽しめる屋内スポットをご紹介します。

① スライムミュージアム Sloomoo Institute (マンハッタン)

様々な色、香り、さわり心地のスライムで遊べるミュージアム。観光客も多く、新年には350ガロン(約1,325リットル)もの大量のスライムが流し込まれた上を歩くイベントもあります。カラフルな水を頭から浴びる体験もでき、大人も子供も、周りの人たちも掛け声をかけ一緒に盛り上がります。ほか、NY市ではメトロポリタン美術館(MET)や近代美術館(MOMA)に始まり、科学、文化、乗り物に関わる様々なミュージアムがあり、子供用のイベントやクラスを開催している所も多く、子供連れにとっても便利です。



② パペットショー Puppet Works (ブルックリン)



昔ながらのパペットショー(人形劇)です。今回観覧したのは「眠れる森の美女」の公演でした。小さい赤ちゃんから10歳位までの子供向けです。昔のヨーロッパを感じさせる内装とデザイン、ユニークな人形と大きな楽器の音楽に子供達も釘付けになりました。コロナ禍の時にはZoomを利用したバーズデーパーティーサービスもあり、3年前に利用しましたが、なかなか好評を博していました。

③ レトロなアーケード Frying Pan Game Room (ブルックリン)

古いアミューズメントパークによくある様なバスケットボール、テーブルフットボール(Foos Ball)、テーブルテニスのゲームや、またストリートファイターなどの日本の90年代にあったような大きなゲーム機もあり、子供達から大人まで思い思いに楽しめます。会社のちょっとした親睦パーティーや、子供のパーティーなどにもぴったりです。今時の子供たちはNintendo Switch、iPod、PCなどのゲームに慣れていますが、昔懐かしいゲームの面白さを味わえるスポットです。



【ニューヨーク駐在員事務所 小田川琴音】

*写真はすべて筆者撮影

News 一覧

<政治>

- ・米下院のイスラエル支援単独法案、バイデン大統領は拒否権発動へ (2/5)
- ・ヘイリー氏手痛い敗北、共和ネバダ州予備選 「該当者なし」下回る (2/7)
- ・バイデン氏、イスラエル軍事行動「度を越している」 休止求める (2/8)
- ・バイデン氏の記憶力巡る指摘は「政治的動機」、米副大統領が非難 (2/9)
- ・トランプ氏、バイデン政権の銃規制撤廃を表明 大統領選勝利なら (2/10)
- ・バイデン氏陣営、T i k T o kアカウント開設 若年有権者取り込みへ (2/12)
- ・米下院、国土安保長官の弾劾訴追案を可決 不法移民への対応で (2/13)
- ・ロイター／イプソス調査 トランプ氏リード縮小、バイデン氏に3%差 米大統領選(2/13)
- ・米政権、下院議長にウクライナ予算案採決要求 共和に代替案の動き (2/14)
- ・トランプ氏の免責主張、最高裁は却下か迅速審理を 特別検察官が要請 (2/15)
- ・トランプ氏、名前の混同「意図的」と釈明 大統領選で記憶力焦点に (2/15)

<金融政策>

- ・FRB、金利据え置き インフレ低下「確信」まで利下げせず (1/31)
- ・FRB パウエル議長 バランスシート縮小、3月会合で詳細な議論予定 (1/31)
- ・FRB、投資活動制限を拡大 機密情報入手可能な全職員を対象に (1/31)
- ・米利下げ観測後退、雇用統計が予想以上に堅調 (2/2)
- ・FRB パウエル議長、利下げ時期検討に慎重にアプローチ可能 (2/5)
- ・ミネアポリス連銀総裁 米経済、高金利で圧迫されず 時間かけて利下げ検討 (2/5)
- ・シカゴ連銀総裁 米経済、インフレ低下続く限り過度な懸念不要 (2/5)
- ・イエレン米財務長官 世銀の中国融資に「強く反対」 現時点で増資検討せず (2/6)
- ・NY連銀調査 米国で白人と非白人の資産格差さらに拡大 (2/7)
- ・リッチモンド連銀総裁、最近の好調な指標に慎重な見方 季節調整の影響も (2/8)
- ・ダラス連銀総裁 米利下げの緊急性感じず、リスクはより均衡 (2/9)
- ・NY連銀 米消費者のインフレ期待、1、5年先は横ばい (2/12)
- ・米利下げ開始時期、6月との見方強まる 予想上回るCPI受け (2/13)
- ・イエレン米財務長官、米インフレ率の長期的な低下傾向に注目すべき (2/14)
- ・シカゴ連銀総裁 米利下げ、インフレ2%低下まで待つべきでない (2/14)
- ・ウォラー理事 FRBのパンデミック時の約束、物価上昇対応で足かせに (2/14)
- ・ブレイナード委員長 米景気回復は力強い、長期成長につながる公算 (2/15)

<経済指標>

- ・非農業部門雇用者数 1月は前月から35.3万人増 (予想18万人増) (2/2)
- ・失業率 1月3.7% 12月も3.7%で横ばい 低い水準 (2/2)
- ・CPI 1月前年同月比+3.1% 利下げ観測後ずれ ドル高進行 (予想2.9%上昇) (2/13)

(出所：各種新聞等、2024年1月下旬～2024年2月中旬のニュースを抜粋)